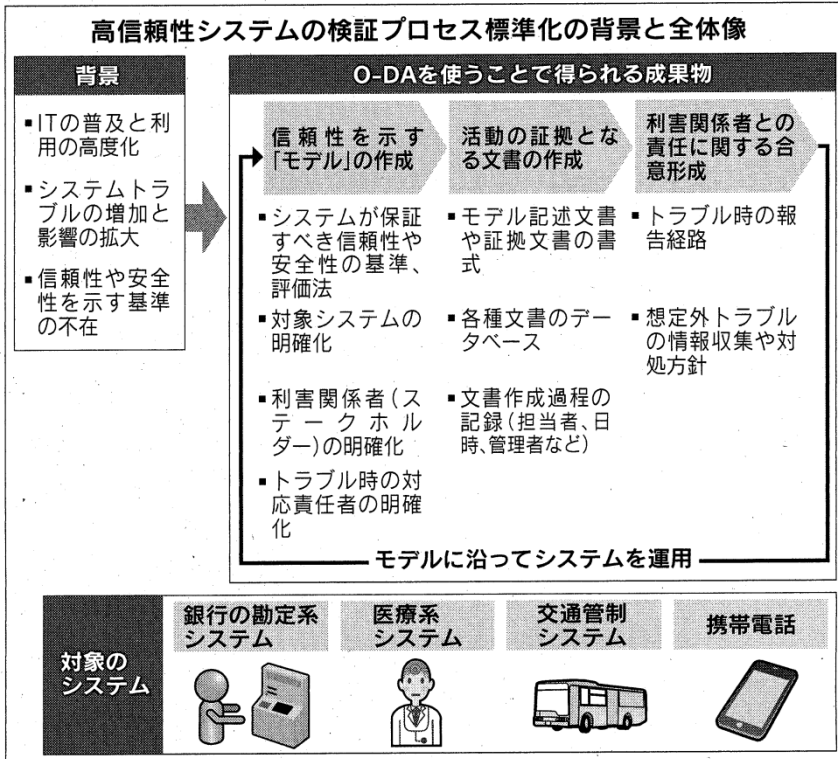


## システム信頼性に新基準

### 銀行勘定系や米団体が策定 鉄道・航空向け

人命や社会基盤を支えるシステムの信頼性を示す国際標準が7日、策定された。策定したのは情報システムの標準化を推進する米国の国際団体オープングループ。高い信頼性を保つために「何をすべきか」、それが確かな手順に沿ったことを「いかに証明するか」を明確にした。IT(情報技術)が社会に浸透するなか、同標準が事実上の世界標準となる可能性がある。



### 世界標準となる可能性

オープングループは1990年代に、大型コンピュータ向け基本ソフト

の安全性や信頼性を確保する手順そのものを対象に、手順の正しさを確か

らしさを検証するためのものだ。具体的な手順や新たなOSなどではない。各種の国際標準作りと認証を手がける団体として活動している。

7日(米国時間6日)に発表したのは「O-D A(安全・高信頼性検証国際標準)」。システム

の安全性や信頼性を確保する手順そのものを対象に、手順の正しさを確か

らしさを検証するためのものだ。具体的な手順や新たなOSなどではない。各種の国際標準作りと認証を手がける団体として活動している。

7日(米国時間6日)に発表したのは「O-D A(安全・高信頼性検証国際標準)」。システム



オープングループが策定する「標準」とはどのようなものか、具体的なメリットは何かをまとめた。

### 標準化、どんな内容?

実施すべき項目を定めた。実施は項目や考え方、記述方法などをまとめた膨大な文書だ。同文書に沿って具体的に記述する手順は、企業や業種によって異なる。

### 検証項目や記述定める

り、利用過程でどんな変化していくのかが重要。これまでは設計や開発の段階に焦点が当たっていたものが多かった。

同標準は藤枝氏が主導してまとめ、科学技術振興機構が主導する組み込みシステム開発プロジェクトである「DEOSプロシエクト」の成果も取り入れた。藤枝氏は「世界で高い信頼性のシステムを作るため、日本が貢献できることを示したい」と意気込む。

(玉置亮太)